

「紹介」活動を軸に展開した日本語授業実践

—孤立環境で学ぶキルギス人学習者を対象として—

田岡 希望・加美 梓・西條 結人
田中 大輝・小野由美子

1. はじめに

国際交流基金「日本語教育 国・地域別情報 キルギス (2016 年度)」の「国際交流基金の2015 年度日本語教育機関調査結果」によると、キルギス共和国 (以下、キルギス) の日本語学習者数は23 機関で924 名である。そのうち、高等教育機関で学ぶ者は394 名 (全体の42.6%)、中等教育は169 名 (18.3%)、初等教育は180 名 (19.5%)、その他教育機関は181 名 (19.6%) となっている。2009 年には、高等教育機関で学ぶ者が478 名 (全体の67.0%)、初等・中等教育機関が合わせて195 名 (27.3%) であった (入山 2010、ヴォロビヨワ 2013 に基づく) ことを考えると、近年は初等・中等教育機関の学習者が増加し、高等教育機関の学習者は減少傾向にあることが窺える。しかし、今なお高等教育機関の学習者が多いことは看過できない。

キルギスにおける日本語教育の課題・問題点については、これまでに様々な指摘がなされてきた。例えば、日本語教員が不足している (氏原 2015)、日本語教員養成の国内制度がない (ヴォロビヨワ 2013、西條ほか 2016a^(注1))、日本語を学習してもその成果を活かせる仕事在国内に少ない (入山 2010、ヴォロビヨワ 2013 など)、日本語の使用機会が限られた「孤立環境」である (西條 2016)、などが挙げられる。

本研究では、これらの課題・問題点のうち、特に、「日本語の使用機会が限られた「孤立環境」である」という点に着目した。「孤立環境」における日本語教育とは、「地域内に日本語コミュニティがなく、旅行、留学等で日本に行くことも稀で、教室外で日本語との接触のない海外環境」における日本語学習環境のこと (cf. 福島・イヴァノヴァ 2006) である。本研究は、「孤立環境」で学ぶキルギス人^(注2)日本語学習者、特に、カラサエフ記念ビシケク人文大学 (以下、ビシケク人文大学) で学ぶ日本語学習者を対象として、より実践的で効果的な日本語学習内容・方法を追究することを目的とした。

2. キルギス共和国ビシケク人文大学における日本語教育

ビシケク人文大学は、1979 年にキルギス・ソビエト社会主義共和国立フルンゼロシア語

ロシア文学教育大学（Фрунзенский государственный педагогический институт русского языка и литературы）として創立され、キルギス共和国独立後の1992年に国立言語・人文科学大学（Государственный институт языков и гуманитарных наук）に改称され、1994年に現在のビシケク人文大学へ名称変更された。日本語日本文学講座は、2004年に東洋国際関係学部の1講座として開設された。

ビシケク人文大学東洋国際関係学部日本語日本文学講座には、2016 - 17年度は、日本語を第一東洋言語^(注3)として学んでいる学生が78名、第二東洋言語^(注4)として学んでいる学生が20名、それに、修士課程の学生が11名の合計109名の学生が在籍している。教員は、日本語を母語とする日本人教員が2名、日本語を母語としないキルギス人教員が9名の合計11名である。授業は80分1コマで、日本語の授業は、各学年、週5回ずつ行われている。

当講座では、「孤立環境」という状況を打破すべく、これまでに様々な取り組みが行われている。その一つが公開情報の充実である。2016年7月に当講座の専用ウェブページが開設されて以来、講座の特色、年間行事、キャンパスライフ、教育・研究活動などの情報を積極的に公開することで、キルギス国内、日本国内、およびその他の国や地域の学習者・教員・研究者への認知度を高めている。さらに、このウェブページでは、当講座の学生が日本語の授業の中で制作した「大学紹介ムービー」「授業紹介ムービー」も視聴できるようになっている。これは、当講座の情報を広く公開するためだけのものではなく、自分の大学や自分の受けている授業のアピールポイントを学生に考えさせること、そして何より、情報の受信者の存在を意識させて学生に日本語を産出させていることに意義がある。これらの動画はYouTubeにアップロードされており、コメント機能を使って国内外の閲覧者とコミュニケーションが取れるので、一方的に情報を提供して終わりなのではなく、提供した情報をきっかけとして、教室外の日本語関係者と繋がりを築けることも意図されている。（動画制作の詳しい背景や目的等については、西條2016に詳しい。）また、学内・国内の日本語弁論大会等を活用することによって、学生に日本語学習の成果を発表する場を提供し、身近な目標を設定させていること、また、国士舘大学や鳴門教育大学から日本語教育実習生やインターンシップ学生を受け入れることで日本人と接する機会を設けようとしていることなど、「孤立環境」であることが学生にとって不利にならないように様々な配慮がなされている。このように、「孤立環境」であることを意識して、講座全体で学生に明確な学習目標を設定し、学生のモチベーションを高める工夫を行っているところに、ビシケク人文大学の日本語教育の特徴があると言えるだろう。

3. 授業実践の背景・目的

鳴門教育大学では、2016年3月に初めてビシケク人文大学に日本語教育実習生を派遣した^(注5)。また、近年は海外の教育機関で日本語を教える機会をもつことを希望する学生が多く、2016年度のタイ王国コンケン大学^(注6)をはじめとして、毎年数名の学生を海外に派遣し、日本語教育実習や日本語教育研修を行っている^(注7)。

この流れを受け、2017年3月に、本学学生2名をビシケク人文大学に派遣し、鳴門教育大学の教員、ビシケク人文大学の教員と協働することにより、日本語教育の授業実践研究を行った。テーマは、「孤立環境」で学ぶビシケク人文大学の学生に、いかに、今後に繋がる日本語学習を提供するか、というものである。

授業実践は、1年生の授業^(注8)（計2回）、補習コースの授業^(注9)（計1回）、2年生の授業^(注10)（計2回）の合計5回、行うことになった。当該授業の履修人数（補習コースは受講人数）と授業実践までの既習項目は、それぞれ(1)–(3)の通りである。

(1) 1年生の授業

【履修人数】30名

【既習項目】『J.Bridge for Beginners vol.1』のLesson 17まで

(2) 補習コースの授業

【受講人数】20名

【既習項目】普段は特に教材は使用せず、4年生が中心となって指導している。

主には『J.Bridge for Beginners vol.1』の復習であるが、4年生が独自に「形がよく似た漢字の指導」「生教材（広告チラシ、メニュー等）を使った読解・ロールプレイ」等を行った。

(3) 2年生の授業

【履修人数】28名

【既習項目】『J.Bridge for Beginners vol.2』のLesson 21まで

授業実践の内容は、ビシケク人文大学がこれまでに培ってきた公開情報の充実・動画制作の経験等を活かすために、日本語での情報発信や情報交換に直結したものを扱うことにした。特に、授業対象者が1年生と2年生であることから、初対面の相手とのコミュニケーション等で応用させやすい、様々な「紹介」活動を軸に授業を展開することにした。具体的な活動

内容は(4)の通りである。

(4) 「紹介」活動を軸にした授業の活動内容

STEP1 (1年生の授業)：「好きな人のタイプを紹介する」

STEP2 (1年生の授業)：「キルギスで人気の料理を紹介する」

STEP3 (補習コースの授業)：「キルギスの名所を紹介する」

STEP4 (2年生の授業)：「キルギス料理の作り方を紹介する」

STEP5 (2年生の授業)：「友だちを誘う、誘いを受ける・断る」

STEP1は「好きな人のタイプを紹介する」という活動である。これは、「紹介」という活動において、まずは自分自身のことを述べるのが学習者にとって最も取り組みやすいと考えたからである。また、この活動をするためには、「やさしいです」「まじめです」のように、人の性格・性質を表す形容詞（イ形容詞、ナ形容詞）を使うことが必要となる。さらには、「やさしくてまじめな人」「元気でかわいい人」のように、複数の形容詞を接続させる言い方も重要になってくる。1年生は、『J.Bridge for Beginners vol.1』のLesson 6、Lesson 7、Lesson 13などで形容詞および形容詞の接続のさせ方について学んでいるので、STEP1の活動はその復習にもなると考えた。

STEP2は「キルギスで人気の料理を紹介する」という活動である。これは、初対面の相手とのコミュニケーションを念頭に置いた場合、自分のことを紹介した後には、自分の国のことを紹介するというのが自然な流れであると考えたからである。その中でも、聞き手が興味を持ちやすい「料理の紹介」を扱うことにした。また、STEP1で人の性格・性質を表す形容詞を扱うので、STEP2では食べ物の味・性質を表す形容詞（例：おいしいです、あまいです、からいです、など）を導入・復習しようと考えた。

STEP3は「キルギスの名所を紹介する」という活動である。これは、キルギスに興味を持ってもらって実際に来てもらうこと、あるいは、すでにキルギスに来た人にキルギスの魅力を伝えることを想定した場合、名所の紹介は欠かせないと考えたからである。また、STEP1で人の性格・性質を表す形容詞を、STEP2で食べ物の味・性質を表す形容詞を扱うので、STEP3では場所の性質を表す形容詞（例：ひろいです、せまいです、きれいです、にぎやかです、など）を導入・復習しようと考えた。さらに、「キルギスには○○があります」や「ピシケクには○○があります」などが言えるようになるために、存在を表す動詞（例：います、あります）も復習しようと考えた（「います」は『J.Bridge for Beginners vol.1』のLesson 5で既習、「あります」は同Lesson 10で既習）。

STEP4は「キルギス料理の作り方を紹介する」という活動である。これは、相手の滞在

(34)

中に一緒にキルギス料理を作ること (STEP5 と関係する) や、相手が日本に帰ってからでもキルギスのことを思い出してもらう (それによって帰国後も関係性を保ちやすくする) ことを意図したものである。また、動作を表す動詞 (例: 切ります、混ぜます、焼きます、炒めます、など) や、時間的前後関係を表す複文表現 (例: 皮をむいたら切ります、炒める前に混ぜます、など) を復習しようと考えたことによる (「たら」は『J.Bridge for Beginners vol.2』 Lesson 1 で、「前に」は同 Lesson 9 で既習)。

STEP5 は「友だちを誘う、誘いを受ける・断る」という活動である。これは、これまでに学習したことを踏まえて、総合的な練習を行うことを目的とした。(「誘う」「断る」という行為そのものは『J.Bridge for Beginners vol.1』の Lesson 5 で既習。)

各STEP の言語面での主な学習項目をまとめたのが(5)である。

(5) 「紹介」活動を軸にした授業の各STEP の言語面での主な学習項目

STEP1 (1年生の授業): 「好きな人のタイプを紹介する」

⇒ 形容詞 (人の性格・性質)、形容詞の接続

STEP2 (1年生の授業): 「キルギスで人気の料理を紹介する」

⇒ 形容詞 (食べ物の味・性質)

STEP3 (補習コースの授業): 「キルギスの名所を紹介する」

⇒ 形容詞 (場所の性質)、動詞 (存在)

STEP4 (2年生の授業): 「キルギス料理の作り方を紹介する」

⇒ 動詞 (動作)、複文 (時間的前後関係)

STEP5 (2年生の授業): 「友だちを誘う、誘いを受ける・断る」

⇒ 総合練習

授業実践では、1年生が受講するのはSTEP1、STEP2 (、STEP3) のみ、2年生が受講するのはSTEP4、STEP5 のみなので、実はSTEP1 からSTEP5 までを連続的な内容にする必然性はなかった。しかし、本研究では、この授業実践研究を通して、「紹介」活動を軸に展開する日本語授業のモデルケースを作成しようと考えたため、このように連続的な内容で授業を行うことにした。

最後に、各STEP の授業者、および授業日時を決定した。以上をまとめると(6)のようになる。

(6) 各STEPのまとめ

STEP	活動内容	言語面での主な学習項目	受講者	授業者	授業日時
1	好きな人のタイプを紹介する	形容詞（人の性格・性質） 形容詞の接続	1年生	田岡	3/23(木) 8:00-9:20
2	キルギスで人気の料理を紹介する	形容詞（食べ物の味・性質）	1年生	田岡	3/24(金) 8:00-9:20
3	キルギスの名所を紹介する	形容詞（場所の性質） 動詞（存在）	1年生	田岡 加美	3/22(水) 14:00-15:20
4	キルギス料理の作り方を紹介する	動詞（動作） 複文（時間的前後関係）	2年生	加美	3/23(木) 9:30-10:50
5	友だちを誘う 誘いを受ける・断る	総合練習	2年生	加美	3/24(金) 9:30-10:50

4. 授業実践の詳細

4. 1. STEP1

STEP1の概要は(7)、授業の流れは(8)の通りである。

(7) <概要>

- a. 授業日時：3/23(木)8:00-9:20
- b. 受講者：1年生20名
- c. 授業者：田岡希望
- d. 活動内容：「好きな人のタイプを紹介する」
- e. 学習目標：好きな人のタイプを紹介することができること。また、イ形容詞・ナ形容詞を使って人の性格・性質を表現することができ、それらの接続の違いを理解することができること。
- f. 語彙：やさしいです、明るいです、まじめです、元気です、など
- g. 文法：面白くて元気な人、まじめで頭が良い人、など
- h. 参考教材：『J.Bridge for Beginners vol.1』 Lesson 6「3つの質問」
『J.Bridge for Beginners vol.1』 Lesson 7「どんな人ですか」
『外国人と対話しよう！にほんごボランティア手帖 すぐに使える活動ネタ集』 Topic 21「理想の恋人」

(36)

(8) <授業の流れ>

	時間	項目	学習・活動内容
1	5分	導入	○授業者の自己紹介を聞く。
2	5分	復習	○人の性格・性質を表す形容詞を復習する。 ○形容詞の接続のさせ方を復習する。
3	15分	準備	○好きな人のタイプについて、グループで考える。
4	35分	発表	○グループごとに発表する。(2回ずつ) ○各自、最も良いと思ったグループに投票する。
5	10分	応用	○自分の家族の紹介方法について学ぶ。 ○「～も」の使い方を学ぶ。
6	10分	まとめ	○コメントカードを記入する。 ○次時(STEP2)についての説明を聞く。

「4 発表」で学生たちが挙げた「好きな人のタイプ」には、例えば以下のようなものがあった。

(9) <学生たちが挙げた「好きな人のタイプ」例>

- a. かっこよくてかわいい人
- b. おもしろくて変な人
- c. 心がキレイで頭が良くて元気な人
- d. 楽しくてキレイで食べ物が好きな人
- e. 元気でかっこよくて静かで眠い人

形容詞については、「2 復習」で出てこなかったものでも、自分たちの知っている表現を使おうとする積極的な姿勢が見られた。また、形容詞の接続は概ねできており、二つに留まらず、三つ、四つ…と接続させているグループもあった。(cf. (9c-e))

一方で、授業内では、形容詞および形容詞の接続のさせ方に焦点を当てすぎてしまったため、「かっこよくてかわいい人」や「おもしろくて変な人」という名詞句は作れても、それを「人に紹介する」という形ではうまく表現できていないグループが多かった。(例:「私たちは、楽しくて頭がいい人です。)」そのため、例えば、以下のように、「好きな人のタイプを紹介する」ための会話の型を授業で紹介しておけば、より実践的で応用の利く日本語の練習が可能になったと思われる。

(10) 「好きな人のタイプを紹介する」ための会話の型

A:「○○さんはどんな人が好きですか。」

B：「私は～～～人が好きです。」

A：「そうですか。私は（も）～～～人が好きです。」

4. 2. STEP2

STEP2の概要は(11)、授業の流れは(12)の通りである。

(11) <概要>

- a. 授業日時：3/24(金)8：00 - 9：20
- b. 受講者：1年生 15名^(注11)
- c. 授業者：田岡希望
- d. 活動内容：「キルギスで人気の料理を紹介する」
- e. 学習目標：形容詞を使い、キルギスで人気の料理を紹介することができること。
- f. 語彙：おいしいです、あまいです、からいです、すっぱいです、など
- g. 参考教材：『まるごと 日本のことばと文化 初級2A2 かつどう』だい4か
「どうやって食べますか」
『小学館ことばのえじてん』
『くもんのことば絵じてん 改訂新版』

(12) <授業の流れ>

	時間	項目	学習・活動内容
1	5分	導入	○前時(STEP1)での授業者の自己紹介において、授業者がどの日本料理が好きだと言っていたかを思い出し、答える。
2	10分	展開	○日本の料理についての紹介を聞く。
3	10分	準備	○本時の活動の内容を理解する。 ○グループを作る。
4	25分	復習	○料理の紹介に必要な形容詞を復習する。
5	15分	発表	○グループごとに発表する。 ○授業者の話聞き、どの料理を食べたいと思っているかを理解する。
6	5分	応用	○「～はどうやって食べますか」「どこで売っていますか」の使い方を学ぶ。
7	10分	まとめ	○コメントカードを記入する。

「5 発表」で学生たちが挙げた「キルギスで人気の料理」およびその説明には、例えば次頁のようなものがあった。

(38)

(13) <学生たちが挙げた「キルギスで人気の料理」例>

プロフ (Плов)、ラグマン (Лагман)、オロモ (Оромом)、ベシュバルマク (Бешбармак)、
クールダック (Куурдак)

(14) <学生たちによる説明例>

- a. プロフはスプーンで食べます。
- b. ベシュバルマクは手で食べます。
- c. ～はソースにつけて食べます。
- d. ～はおいしいです。(圧倒的多数)

食べ方については、(14a-c)のように、「[名詞] で 食べます」「[動詞テ形] 食べます」という既習文型を用いた様々な説明が見られたのであるが、味・性質については、大部分が「おいしいです」であり、その他の形容詞を使用したものとしては、ベシュバルマクについて「しおからいです」が出た程度に留まった。しかしこれは、学生たちが形容詞の使用方を適切に理解できていなかったことを表すのではない。「人気の料理を紹介する」という活動の性質上、「おいしいです」以外に表現のしようがなかったからであると考えられる。(例えば、「からいです」や「すっぱいです」を使用すると、聞き手に好意的な印象を与えないおそれがあるため使用が避けられた、という可能性がある。)これがデザートを紹介などであれば、「甘くておいしいです」や「冷たくておいしいです」のように「おいしいです」以外の形容詞の使用も十分に考えられたところなので、食べ物の味・性質を表す形容詞の使用を練習するという目的においては、「料理」の紹介というのは適切でなかったかもしれない。

また、本活動においても、学生たちの紹介は「プロフはスプーンで食べます。プロフはおいしいです。」のように、紹介としてはやや唐突な印象を受けるものが多かった。そのため、例えば、以下のように、「キルギスで人気の料理を紹介する」ための導入の型と締めを授業で紹介しておけば、より実践的で応用の利く日本語の練習が可能になったと思われる。

(15) 「キルギスで人気の料理を紹介する」ための導入の型と締めの型

「私たちは、○○○を紹介します。」「ぜひ食べてみてください。」

4. 3. STEP3

STEP3の概要は(16)、授業の流れは(17)の通りである。

(16) <概要>

- a. 授業日時：3/22(水) 14：00 - 15：20
- b. 受講者：11名（1年生6名、4年生4名、特別聴講生1名）
- c. 授業者：田岡希望、加美梓
- d. 活動内容：「キルギスの名所を紹介する」
- e. 学習目標：キルギスの各都市の名所について、イ形容詞・ナ形容詞を使って説明したり、尋ねたりすることができること。
- f. 語彙：広いです、狭いです、大きいです、きれいです、賑やかです、有名です、あります、います、など
- g. 参考教材：『まるごと 日本のことばと文化 初級1A2 かつどう』だい5か
「このこうえんはひろくて、きれいです」

(17) <授業の流れ>

	時間	項目	学習・活動内容
1	5分	導入	○授業者の自己紹介を聞く。
2	10分	導入	○徳島の観光地などの紹介を聞く。 ○授業者からの質問に答える。
3	5分	準備	○グループを作り、担当するキルギスの都市を決める。
4	5分	復習	○「～には、～があります」などの表現を復習する。 ○形容詞および形容詞の接続のさせ方について復習する。
5	10分	準備	○グループごとに、発表の内容を考える。
6	10分	発表	○グループごとに発表する。
7	10分	質問	○他のグループの発表内容について質問する。
8	15分	応用	○長崎の観光地などの紹介を聞く。 ○紹介された内容について質問する。 ○徳島と長崎のうち、行ってみたい方に投票し、その理由を述べる。
9	10分	まとめ	○コメントカードを記入する。

「3 準備」で学生たちに割り当てられた都市は、それぞれ、「ビシケク（Бишкек）」「オシユ（Ош）」「タラス（Талас）」「イシククル（Иссык-Куль）」であった。「6 発表」で学生たちが挙げた「キルギスの名所紹介」の例が(18)、「7 質問」での学生間のやりとりの例が(19)である。

(18) <学生たちによる「キルギスの名所紹介」例>

- a. ビシケクには、オシユバザールがあります。

(40)

オシュバザールは、にぎやかです。

- b. タラスには、タラス川があります。
タラスはきれいです。

(19) <学生たちによる質問・回答例>

- a. A 「ビシケクは静かですか。」
B 「いいえ、にぎやかです。」
b. C 「イシククルには温泉がありますか。」
D 「はい、あります。」
C 「温泉は大きいですか。」
...

紹介においても質問・回答においても、場所の性質を表す形容詞、存在を表す動詞ともに適切に使用できており、語彙面・文法面の定着は十分であることが確認できた。ただし、学生の発表に対して、学生（のみ）に質問させるようにしてしまったのは筆者たちの工夫が足りなかった。ビシケクが静かであるかどうかはビシケクに住む学生たちならすでに知っていることであり、練習のためだけの質問になってしまっていたからである。せっかくキルギスのことを知らない日本人が授業者として参加しているのだから、質問は授業者が行うようにすべきであった。（「8 応用」で学生たちに質問させる時間は確保しているので、「6 発表」では発表することに、「7 質問」では質問に回答することに、「8 応用」では質問することに、それぞれ学生の活動の焦点を絞る方が良かったと思われる。）

4. 4. STEP4

STEP4 の概要は(20)、授業の流れは(21)の通りである。

(20) <概要>

- a. 授業日時：3/23(木)9：30 - 10：50
b. 受講者：2年生13名
c. 授業者：加美梓
d. 活動内容：「キルギス料理の作り方を紹介する」
e. 学習目標：日本やキルギスで人気の料理の材料や作り方を日本語で説明できるようになること。
f. 語彙：切ります、混ぜます、焼きます、炒めます、など

- g. 参考教材：『J.Bridge for Beginners vol.2』 Lesson 9 「山川さんの恋」
『日本語おしゃべりのたね 第2版』 ユニット9 「何を食べようかな」

(21) <授業の流れ>

	時間	項目	学習・活動内容
1	5分	導入	○授業者の自己紹介を聞く。
2	10分	導入	○日本料理についての説明を聞く。 ○自分が好きな食べ物や知っている日本料理について述べる。
3	15分	展開・復習	○カレーライスの作り方についての説明を聞く。 ○「切ります」「炒めます」など動作を表す動詞を復習する。 ○「～たら」「～前に」「～た後で」など、時間的前後関係を表す表現を復習する。
4	10分	準備	○グループを作り、作り方を紹介するキルギス料理を決める。 ○その料理の作り方を日本語でどう表現するか考える。
5	20分	発表	○グループごとに黒板に作り方を書く。
6	10分	応用	○食べてみたい日本料理を挙げ、その理由を述べる。
7	10分	まとめ	○コメントカードを記入する。

「4 準備」で学生たちが選んだキルギス料理は、「プロフ」「クールダック」「ボルソク(Боорсок)」であった。作り方の説明には、例えば以下のようなものがあった。

(22) <学生たちが挙げた「キルギス料理の作り方」例：プロフ>

「にんじんと牛肉と玉ねぎを切ります。牛肉を焼きます。
5分待った後で、にんじんと玉ねぎを鍋に入れたら混ぜます。
10分後に米を入れます。水を入れた後でできあがり。」

動作を表す動詞や時間的前後関係を表す複文表現は上手に使っていた。ただし、全体的に、文を羅列しているだけというグループが多かったので、「まず」「次に」「最後に」などの表現も導入しておく、より自然な説明ができるようになっただろう。また、授業者は学生に紹介文を考えさせるときに、外国の人に説明する場面を想定することを指示していたのであるが、いつ訪れるか分からない架空の状況・架空の相手を念頭に置いて説明を考えるのは難しい。せっかくキルギスのことを知らない日本人が授業者として参加しているのだから、「授業者に説明する」つもりで考えてもらった方が、よりリアリティのある紹介活動となっただろう。

(42)

4. 5. STEP5

STEP5 の概要は23、授業の流れは24の通りである。

(23) <概要>

- a. 授業日時：3/24(金)9：30 - 10：50
- b. 受講者：2年生 13名 (注12)
- c. 授業者：加美梓
- d. 活動内容：「友だちを誘う、誘いを受ける・断る」
- e. 学習目標：約束をするときに使う表現を、場面によって使い分け、相手の反応を見ながら約束をすることができること。また、日本人特有の表現について理解できること。
- f. 表現：～したことはありますか、～はひまですか、いいよ、楽しそうですね、ちょっと用事があるて…、また今度、など
- g. 参考教材：『日本語でインターアクション』5「友達といっしょに遊びに行く」

(24) <授業の流れ>

	時間	項目	学習・活動内容
1	5分	復習	○前時 (STEP4) の学習内容を振り返る。
2	5分	導入	○普段、休みの日に何をするか考え、答える。 ○本時の目標を聞き、理解する。
3	25分	展開	○「友だちを誘う」ときの表現を理解する。 ○「友だちを誘う」ときの手順を理解する。
4	15分	展開	○「誘いを受け入れる」場合の表現を理解する。 ○「誘いを断る」場合の表現を理解する。
5	20分	発表	○ペアで会話練習を行う。
6	10分	まとめ	○コメントカードを記入する。

本時は、これまでに学習したことを踏まえて総合的な練習を行うことを目的としたが、実際には、友だちを誘うときの表現や手順、誘いを受け入れたり断ったりするときの表現を扱うので精一杯であり、会話練習はワークシートのモデル会話をペアで練習するに留まってしまった。「誘う」「断る」などは既習項目だったとはいえ、「友だちを誘う、誘いを受ける・断る」は次のように学習項目が多いため、どうしても復習と定着に多くの時間がかかってしまう。

(25) 「友だちを誘う、誘いを受ける・断る」の主な学習項目

- a. 「誘う」型 : 例) 「～ませんか」など
- b. 「理由を付けて誘う」型 : 例) 「～んですが、～ませんか」など
- c. 「誘いを受け入れる」型 : 例) 「いいですね、～ましょう」など
- d. 「誘いを断る」型 : 例) 「すみません、その日はちょっと…」、
 「また今度お願いします」など
- e. 相手よっての使い分け: 例) 「～ませんか」と「～ない?」、
 「～んですが、」と「～んだけど、」など

そのため、これまでに学習したことを踏まえて「友だちを誘う、誘いを受ける・断る」という活動を行うのであれば、本時で行ったような復習・定着を一コマ目に、総合練習（キルギスで人気の料理を紹介した後に食事に誘う、キルギスの名所を紹介した後に観光に誘う、など）を二コマ目に行くなど、時間配分の再考が必要となるであろう。

5. 実践の成果と残された課題

本研究では、「孤立環境」で学ぶビシケク人文大学の学生に対し、いかに、実践的で効果的な日本語学習を提供するかをテーマとして、「紹介」活動を軸に展開した日本語の授業を行った。本節では、授業者自身が感じたこと、授業に参加した学生たちが各授業の終了時に書いてくれたコメントカードの内容、授業を見学した鳴門教育大学・ビシケク人文大学の教員のコメント等をもとに、実践の成果と残された課題を振り返りたい。

5. 1. 成果

ビシケク人文大学の学生が普段接している日本人は、日本語日本文学講座の2名の日本人教員が主であり、人数や機会が非常に限られている。そのため、学生のコメントカード^(注13)では、「日本人と時間を共有できてよかった。」「日本人と話すのは素晴らしかった。」「日本人が近くにいてよかった。日本人がどう使って、話すのかがわかるから。」など、日本人と接する機会が持てたことそのものを高く評価する声が多く見られた。今回、日本から渡航した3名の日本人（田岡・加美・田中）のキルギス滞在期間はおよそ10日間のみであったが、当講座の学生は、ホームステイや各種イベント等を通し、授業以外にも日本人と時間を共にする機会が多く与えられていた。「孤立環境」で学ぶ学習者にとっては、日本人と接する機会は学習内容の貴重な実践・確認の場であり、日本人と接する時間を持つことそのものが日本語学習の大きなモチベーションに繋がっていたようであった。今後も、日本から定

期的に日本人を派遣し、「孤立環境」で学ぶ学習者に日本人と接する機会を持つ手助けを行いたい。

また、今回の日本からの渡航者3名は、いずれも、ビシケク人文大学の学生にとっては初対面の日本人であった。そのため、当講座の学生にとっては、「知らない人と話す」「知らない人に伝える」という、緊張感のあるコミュニケーション機会となった。「知らない人」と話す場合には、利用できる文脈が限られており、一つ一つの情報をしっかり言語化することが求められることが多い。普段接していて「よく知っている」日本人（共通理解が多く、言語化した情報が不十分でも察してもらえることが多い）とは異なり、うまく通じないことや分かってもらえないことが多かっただろうが、そのような相手とうまくコミュニケーションを取るためには何が必要かを考える良い機会になったことだろう。

今後、ビシケク人文大学の学生が日本人と接するとき、それは初対面の相手となる可能性が高い。初対面の相手とのコミュニケーションを想定した本研究の「「紹介」活動を軸に展開した日本語授業」は、学生たちが次の機会にすぐに活かせる内容となっており、実践的な学習内容となっていたと言える。

5. 2. 課題

第4節の各小節でも振り返ったとおり、授業の方法等には課題も多く見つかった。例えば、ビシケク人文大学の学生にしてみれば、せっかく「よく知らない日本人（＝授業者たち）」に実際にいろいろ「紹介」する良い機会であったにもかかわらず、授業者は「自分たちに」紹介してほしいというスタンスではなく、「いつか来るかもしれない日本人との接触機会に備えて」紹介の練習をするというスタンスで臨んでしまっていた。「不確定な未来のための練習」と「目の前にいる人への実践」とではリアリティが大きく異なってしまう。普段「孤立環境」で学んでいる学生たちであるからこそ、授業者自身とのコミュニケーションをもっと現実のものとして有効活用するべきであった。そのためには、より具体的に現実的な場面設定および目標設定を行う必要がある。

また、各回において、どのような表現、どのような文型を知っておくと便利なのか、また、それらを使った会話例にはどのようなものがあるのか、などを一覧にして学生に渡しておくと、学習した内容がより定着しやすく、次に活かしやすくなったと思われる。このように、学習内容の資料としてのまとめ方にはまだ工夫の余地があった。今後の課題としたい。

注

(1) 本稿では、西條、ジュヌシャリエワ、ダウレトバエワ、メデルベコワ（2016）を「西條

ほか 2016a)、西條、ジュヌシャリエワ、ダウレトバエワ、メデルベコワ、知念、吉川、幾田 (2016) を「西條ほか 2016b)」と呼ぶことにする。

- (2) 「キルギス人」という用語は本来定義づけが難しく、「キルギス民族 (キルギス系) の人のみ」を指す場合、キルギス系だけでなくロシア系・ウズベク系などすべて含めて「キルギスに在住している人」を指す場合、「キルギス国籍をもつ人」を指す場合など、解釈によって指示する対象が異なる。どの定義・解釈が適切であるかは本稿の範疇を越えるので、本稿ではその点についての議論は行わず、「キルギスに在住している人」という意味で「キルギス人」という用語を用いる。
- (3) 「第一東洋言語」とは、東洋国際関係学部での専攻言語 5 言語 (日本語、韓国・朝鮮語、トルコ語、アラビア語、ペルシャ語) を指す。本稿では 5 言語の中で日本語を専攻している学生を指す。なお、第一外国語は全学共通で英語となっている。
- (4) 「第二東洋言語」とは、東洋国際関係学部で第一東洋言語以外の残り 4 言語のいずれかの言語を指す。本稿では、第一東洋言語を韓国・朝鮮語とする言語学専攻の学生が履修している「第二東洋言語 (日本語)」が該当する。
- (5) この日本語教育実習の全貌については西條ほか 2016b に詳しい。
- (6) この日本語教育実習の全貌については田中・鎌田 2017、神村 2017、近藤 2017 を参照してほしい。
- (7) 近年の海外での日本語教育実習の実績は以下の通りである。

2016 年度：タイ王国 (2 名)

2015 年度：キルギス共和国 (2 名)、ルワンダ共和国 (2 名)、タイ王国 (1 名)

上記は「日本語教育実習」という授業の一環で派遣された人数である。これ以外に、研究プロジェクト等で海外に派遣され、そこで日本語を教える機会をもった者も数名いる。

- (8) 東洋学専攻と言語学専攻の 2 クラス合同の「東洋言語 (Восточный Язык)」の授業。
- (9) 「補習コース」とは、ビシケク人文大学東洋国際関係学部の言語学 (日本語) 専攻の 4 年次前期開講科目「選択科目《専門分野》(КПВ ДС(Курс по Выбору Дисциплины Специализации))」内で設けた、履修学生による 1 年生対象の日本語授業のことである。
- (10) 言語学専攻学生対象の「東洋言語演習 (Практический курс по Восточному Языку)」と国際関係論専攻学生対象の「東洋言語 (Восточный Язык)」の 2 クラス合同授業。
- (11) この日はビシケク人文大学東洋国際関係学部日本語日本文学講座のオープンキャンパスが開催されており、この授業には、ビシケク人文大学の学生 15 名に加えて、タラス市とナリン市の子ども教育センターから合計 11 名 (教員 2 名、生徒 9 名) が参加した。
- (12) この日はビシケク人文大学東洋国際関係学部日本語日本文学講座のオープンキャンパスが開催されており、この授業には、ビシケク人文大学の学生 13 名に加えて、タラス市と

(46)

ナリン市の子ども教育センターから合計 11 名（教員 2 名、生徒 9 名）が参加した。

- (13) 学生からのコメントカードの内容は、ロシア語で書かれたものを日本語に翻訳して紹介している。

【附記】

本稿は、2017 年 4 月 30 日にキルギス共和国日本人材開発センターで開催された「第 21 回 中央アジア日本語教育セミナー」で口頭発表した内容を、大幅に加筆・修正したものである。当日、司会を務めてくださったメデルベコワ・チョルボン先生を始め、貴重なご意見をくださった諸先生方に、この場を借りて感謝申し上げたい。また、実践の場をご提供くださり、授業を行うにあたって多大なご支援をくださったビシケク人文大学東洋国際関係学部日本語日本文学講座の先生方、学習者の皆様に感謝を申し上げる。もちろん、本稿の不備や誤りはすべて筆者達に帰す。

本研究は、以下の助成を受けている。

- ・JICA 受託事業「ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂プロジェクト（第 2 年次）」（代表：小野由美子）
- ・JICA 受託事業「エジプト国エジプト日本学校（EJS）普及に向けた情報収集・確認調査」（代表：小野由美子）

〈参考文献〉

論文・報告書

- 入山美保 (2010) 「キルギス共和国における日本語教育の現状と課題」『筑波応用言語学研究』17、pp.85-98、筑波大学
- ヴォロビヨワ・ガリーナ (2013) 「キルギスの日本語教育事情」『世界の日本研究 2013 日本研究の新しい動向』17、pp.59-67、国際日本文化研究センター
- 氏原名美 (2015) 「キルギス共和国日本語教育事情 頭脳流失－日本語教師のジレンマ」『日本語教育から見た国際関係報告書 2014』、pp.15-35、国士館大学
- 加美梓、田岡希望、西條結人、田中大輝、小野由美子 (2017) 「「紹介」活動を軸に展開した授業実践－ビシケク人文大学での日本語教育実習から－」、第 21 回 中央アジア日本語教育セミナー発表資料
- 神村千香子 (2017) 「コンケン大学（タイ）日本語教育プログラム 参加報告書」、『平成 28 年度 鳴門教育大学 グローバル教員養成プログラム報告書』（http://www.naruto-u.ac.jp/_files/00099028/2016houkokusho.pdf）、pp.31-48、鳴門教育大学

- 近藤千晶 (2017) 「コンケン大学 (タイ) 日本語教育プログラム 参加報告書」、『平成 28 年度 鳴門教育大学 グローバル教員養成プログラム報告書』 (http://www.naruto-u.ac.jp/_files/00099028/2016houkokusho.pdf)、pp.49-73、鳴門教育大学
- 西條結人 (2016) 「キルギス共和国の高等教育機関における日本語教育実践に関する研究－「動画制作」を取り入れた授業開発の試み－」、『語文と教育』第 30 号、(33)－(51)、鳴門教育大学国語教育学会
- 西條結人 (2017) 「キルギス共和国における日本語教育の現状と課題－「現地化」した日本語教育ネットワークの構築・改善を目指して－」、『キルギス日本語教育研究』創刊号、pp.48-59、キルギス共和国日本語教師会
- 西條結人、ジュヌシャリエワ・アセーリ、ダウレットバエワ・ジャミリヤー、メデルベコワ・チヨルボン (2016) 「キルギスの高等教育機関における「優れた」日本語教師の行動特性 キルギス人日本語学習者への質問紙調査の分析から」、『海外日本語教育研究』第 2 号、pp.37-51、海外日本語教育学会
- 西條結人、ジュヌシャリエワ・アセーリ、ダウレットバエワ・ジャミリヤー、メデルベコワ・チヨルボン、知念美和、吉川巧也、幾田伸司 (2016) 「「日本語教育実習」の新しいプログラム開発と実践を目指して－キルギス共和国で実施した教育実習の課題と展望－」、『鳴門教育大学国際教育協力研究』第 10 号、pp.11-17、鳴門教育大学教員教育国際協力センター
- 田中大輝、鎌田千穂 (2017) 「コンケン大学 (タイ) 日本語教育プログラム 実施報告書」、『平成 28 年度 鳴門教育大学 グローバル教員養成プログラム報告書』 (http://www.naruto-u.ac.jp/_files/00099028/2016houkokusho.pdf)、pp.21-30、鳴門教育大学
- 福島青史、イヴァノヴァ・マリーナ (2006) 「孤立環境における日本語教育の社会文脈化の試み－ウズベキスタン・日本人材開発センターを例として－」、『国際交流基金日本語教育紀要』第 2 号、pp.49-64、国際交流基金

日本語教材

- 『外国人と対話しよう！にほんごボランティア手帖 すぐに使える活動ネタ集』、御館久里恵・仙田武司・中河和子・吉田聖子・米勢治子 (著)、前田純子 (イラスト)、凡人社、2010 年
- 『くもんのことは絵じてん 改訂新版』、公文公 (監修)、くもん出版、2007 年
- 『J.Bridge for Beginners vol.1』、小山悟 (著)、凡人社、2009 年
- 『J.Bridge for Beginners vol.2』、小山悟 (著)、凡人社、2010 年
- 『小学館ことばのえじてん』、篠崎晃一 (監修)、小学館国語辞典編集部 (編)、小学館、2008 年

(48)

『日本語おしゃべりのたね 第2版』、澤田幸子・福家枝里・三輪香織・武田みゆき（著）、西口光一（監修）、スリーエーネットワーク、2011年

『日本語でインターアクション』、サウクエン・ファン（監修）、吉田千春（編著）、徳永あかね、山田悦子、武田誠（著）、凡人社、2014年

『まるごと 日本のことばと文化 初級1A2 かつどう』、独立行政法人国際交流基金（編著）、三修社、2014年

『まるごと 日本のことばと文化 初級2A2 かつどう』、独立行政法人国際交流基金（編著）、三修社、2014年

ウェブサイト

国際交流基金「日本語教育 国・地域別情報 キルギス（2016年度）」

<https://www.jpfi.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2016/kyrgyz.html>

（2017年8月1日最終アクセス）

ビシケク人文大学 東洋国際関係学部 日本語日本文学講座「ホーム」

<https://japanesephilology-bhu.jimdo.com/>

（2017年8月1日最終アクセス）

YouTube キルギス日本語チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UC6ay1J-365qQ8TFMxqd1SuA>

（2017年8月1日最終アクセス）

（たおか のぞみ・本学学部在学）

（かみ あずさ・本学大学院在学）

（さいじょう ゆうと・カラサエフ記念ビシケク人文大学）

（たなか だいき・本学教員）

（おの ゆみこ・本学教員）